



文科省等への“提言活動”に他学協会と連携 横断型基幹科学技術推進協議会など“提言” 15学協会などが協賛 提言 足並み揃える!



“提言内容” などについて議論を繰り広げる



5月21日(月曜日)午後6時から、日科技連東高円寺ビル会議室で9名が出席して第27回《TQ E特別委員会》を開催しました。

前々回の3月以降、各方面からの情報に基づき初等中等教育における理数系教育強化を働きかける“緊急提言”について、鈴木委員長はじめ椿、西村、渡辺各委員が協力して提言等の内容を詰め、日本品質管理学会長の坂根会長(小松製作所会長、経団連副会長、日本科学技術連盟会長)から関係学会や関連協会への提案を行ったことが報告されました。

先の「教員養成コア・カリキュラムへの提言」、「子どもに問題解決能力を育成するための教員養成の在り方～教科横断的問題解決プロセス“教授力”」等について提言活動を展開することが検討されました。

併せて昨年12月27日に成功裏に開催した「第2回科学技術教育フォーラム」に続き、今年12月には第3回目を開催する方向で、企画内容や講演テーマなどについての検討が行われました。

また先週千葉県立高校で実施されたTQ E委員による講座開催の報告が行われ、この日の委員会を終了しました。



鈴木委員長からの開会挨拶の後、早速、前回議事録の説明がありました。

その後「教員養成コア・カリキュラムへの教科横断的問題解決教育の提言」について、当学会から横幹連合*1・FME S*2所属学協会への賛同を働きかけた結果が報告された他、坂根会長ならびに当学会・中條理事の本提言への期待が大であることが紹介されました。



“理数教育”充実に向けて、東京都は文系教員が多く、理系教員が不足傾向にあり、理系教員の補充が検討されているそうです。

新学習指導要領に沿った高校の教科書高校の情報科の教科書には「問題解決」の表題が入っており、「PDC A」が紹介されていますが「特性要因図」は抜けており、問題解決の手法の中では「K J法」が紹介されている一方「QC七つ道具」などは紹介されていないとまだ問題がありそうです。



また文部科学省が求めている中央教育審議会へのパブリックコメントの提言も準備が行われることになりました。

*1 横幹連合：横断型基幹科学技術推進協議会



統計学会の教育委員会でもいろいろ提言活動を展開しているが、的確に相手に伝えることが難しい。



高等学校の教育現場では「品質管理」や「QC七つ道具」というものは馴染みがありませんので、そういうものをどう教育するかは課題ですね。



QCサークル京浜地区では最近、QCサークル大会への参加者数が増えており、関心が高まっているように感じます。



品質管理の分野では「QC検定」についても最近受験希望が増えています。

3月に実施した「QC検定」の受験者数は約4万人と、確かに関心が高まっています。

その他、5月14日に日本経済新聞（22面）に掲載された中央教育審議会の大学教育部会長の佐々木雄太先生の「大学生、主体的学びを」と題する記事が紹介され、教えられるのを待つのではなく、自ら学んで行こうと言う姿勢が求められていることが強調されていました。

授業での先生と生徒の関係が、教える側と教えられる側というスタンスではなく、双方向授業の必要性が強調され、問題解決能力の育成を急ぐ必要があると紹介されていました。

また、昨年12月27日に成功裏に開催した《第2回科学技術教育フォーラム》では参加者のアンケート調査を行い、その結果に基づき、今年12月には《第3回フォーラム》を開催する方向で、具体的な企画内容について議論しました。

第2回では産業界からの期待を日本品質管理学会長（小松製作所会長）の坂根正弘氏、日本IBMの最高顧問北城格太郎氏のお二人に講演頂きましたが、第3回では「教科横断的問題解決教育と教授力」をテーマとし、TQE活動の実践事例紹介などを具体化する方向で検討が行われました。



委員会活動の議事については山下さんに詳細を記録して頂いており、委員会内での情報共有に威力を発揮しています。

*2 FME S : Japan Federation of Managerial Engineering Societies : 経営工学関連学協会協議会